別記様式(第4条関係)

会議録

会議の名称	第4回 加東市環境市民会議
開催日時	令和2年7月7日(火) 午後7時から午後9時まで
開催場所	加東市役所2階 201会議室
<p>議長の氏名 竹村厚司</p> <p>出席委員の氏名</p> <p>竹村厚司 芦谷恒憲 長谷川豊 三木達明 藤原大輔 井上益子 片山剛志 森美佳 柳隆之 植田竹吉 衣笠比佐志 藤本真佐己 井上綾乃 小薮準也 余部衛 藤井悦雄 丸山正人 丸山健次</p> <p>欠席委員の氏名</p> <p>出井和典 戸田恵造 笠井郁男 藤井哲夫 中嶋研二</p>	
<p>説明のため出席した者の職氏名</p> <p>(株)総合環境計画 藤田茂伸 寺田みなみ</p>	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>市民協働部 部長 藤井康平 市民協働部生活環境課 課長 楯本俊也 副課長 藤原義守 同課資源循環係 係長 丸山耕市 同課環境政策係 主事 竹内大樹</p>	
<p>議題、会議結果、会議の経過及び資料名</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員、コンサルタント、事務局の紹介 3 副委員長の選任 4 議事 <ul style="list-style-type: none"> ・第2次加東市環境基本計画骨子案について ・ワークショップ「市民・事業者の環境行動方針について」 5 閉会 <p>以下議事内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2次加東市環境基本計画骨子案について <p>資料「第2次加東市環境基本計画策定について」「第2次加東市環境基本計画骨子案」に基づき、事務局から説明した。内容は以下の通り。</p> <p>それではこれより「第2次加東市環境基本計画」骨子案についてご説明させていただきます。</p> <p>お手元に、「第2次加東市環境基本計画策定について」というA4両面資料と、「意見・提案シート」、冊子「第2次加東市環境基本計画及び行動方針 骨子案」をご用意ください。</p> 	

平成23年策定の「加東市環境基本計画」が本年度をもって計画期間満了となることに際し、令和元年度から策定準備を進めてきた「第2次加東市環境基本計画」ですが、令和元年度中に実施した、A4資料表中の市民会議、アンケート、審議会等を経て、この度、計画の骨組みとなる骨子案を作成いたしました。

本日はこちらの骨子案の構成等について、委員の皆様にご紹介をさせていただきます。

それでは、お手元に骨子案をご用意ください。

まず1ページ目をご覧ください。

こちらには第2次計画策定における基本的な考え方を記載しております。

市民、事業者、市の3者の連携、協働により環境の保全や創造を行うという基本理念はそのままに、第1次計画の取組の評価、見直しを行い、この10年間の気候変動等の環境変化、それに伴う社会状況の変化や、環境問題に関する国、県等の動向も踏まえ、第2次計画に反映させます。

6ページをご覧ください。

本計画では、環境の範囲を「廃棄物分野」「地球環境分野」「自然環境分野」「生活環境分野」「協働の推進・環境学習分野」の5分野とし、それぞれの分野について現状分析を行い、基本方針、目標とする将来像の設定を行ったうえで、市民、事業者、市それぞれの具体的取組を掲載します。

1点これまでの市民会議の流れから変更をさせていただいた部分がございます。それが交通についてです。交通の問題につきましては、これまでの市民会議で、市内の交通網の不便さを解消させるための、市内交通網の活性化という方向性のもと、生活環境分野の中でお話しをしていただいておりますが、加東市では、地域の公共交通網の活性化を目的とした「加東市地域公共交通網形成計画」という計画が平成29年中に策定されておりますので、環境基本計画では内容の重複を避けるため、公共交通の積極的な利用や徒歩、自転車移動による温室効果ガスの削減を目的として、地球環境分野の中で取り扱っていく方向で考えております。

次に7ページですが、このページには3主体それぞれの役割を記載しております。それぞれの環境に対する責務を果たすことに加え、すべての主体が連携、協働することにより、よりよい加東市の生活、自然環境を実現しようというのが本計画の趣旨でございます。

次に8ページ、9ページをご覧ください。

こちらには市民会議や市民等アンケートの結果から、分野ごとの加東市の現状について掲載しています。

10ページ以降には市の環境の将来像、分野ごとの基本方針、将来像をSDGsのターゲット番号とともに記載しています。10ページ下部の緑の枠内に加東市の環境の将来像として標語のような形で目標を掲載しておりますが、こちらは事務局で記載した暫定案であり、今後の審議会や市民会議を経て修正、決定いたします。また、16ページには、本計画の体系図を記載しています。

次に17ページをご覧ください。

ここからは市民、事業者、市の取組を分野ごとに詳しく記載しています。市民・事業者の取組については、これまでの市民会議の内容を盛り込んで記載しておりますが、ここからさらに加筆・修正を加えます。市の取組については、5月中に市役所内各課を対象にヒアリングを実施しており、その結果を精査のうえ数値目標とともに掲載しま

す。

次に32ページをご覧ください。ここからは「市民・事業者の環境行動方針」として、市民・事業者の重点取組を掲載します。32ページには第3回市民会議で皆様に考えていただいた、分野ごとの「目指す姿」を掲載しています。

現在、空欄となっている33ページ以降の重点取組とその詳細について、今回の市民会議を含め、3回の市民会議で決定していきます。

最後に36ページ以降の計画推進体制についてですが、こちらは関係機関と調整のうえ確定させていく予定です。

市民会議委員の皆様におかれましては、現段階で、骨子案を一度詳しくご確認をいただき、構成や今後の施策決定の方向性等について、ご意見やご提案をいただきたく存じます。ご意見、ご提案をいただける場合は、別紙でつけております、「意見・提案シート」にご記入いただき、7月22日までに、事務局までご提出いただきますようお願いいたします。皆様どうぞよろしくお願ひいたします。

・ワークショップ「市民・事業者の環境行動方針について」

資料「第4回環境市民会議ワークショップについて」「市民・事業者の環境行動方針検討の手順」「生活環境分野について」を参考に、「廃棄物分野」「地球環境分野」「自然環境分野」「生活環境分野」「協働の推進分野」「環境学習分野」の各分野について、班ごとにワークショップを行った。内容は以下の通り。

－前半－

【1班】自然環境分野について

- ・ 加古川のため池では、クリーンキャンペーンと併せて自然観察会や外来種駆除を兼ねた勉強会などを行っている。専門家を招いての勉強会も実施しており、取組を通じた地域づくりや市民の関心を高めるために行っている。参加者もはじめは町内会が中心であったが、今では高校生やPTA等も加わっている。
- ・ 外来種がどのような経緯で住み着いているのかを知ってもらうことや、外来種による被害やその対策を周知する必要がある。
- ・ やしろの森公園では、アメリカザリガニなどの外来種駆除を目的とした、池干しを行っており、子ども達が実際に生き物に触れる機会となっている。
- ・ 平池でも外来種駆除のために掻い堀りが行われているが、現在市民が参加しているかは分からない。大賀ハスを守ることを目的として市民が参加できると良い。
- ・ 加東市はため池も多いが、現在は掻い堀りもあまりされていない。市民が掻い堀りに参加する活動が広がることで、地域農家も一緒に取り組んでくれるかもしれない。
- ・ 高齢者や大人だけでなく、子どもや学生が取組みに参加することで、地域の活性化にもつながる。地域外の人でも参加できるようにしても良い。
- ・ 小さい子どもが自然に関心を持つ場を設ければ、成長してからも自然を守ろうと考えてくれるはずである。ため池なども危険だから近づかないようにと大人が教えることによって距離が生まれてしまうが、大人が側についていれば良い。
- ・ 山が適切に管理されないことや、耕作放棄地があることで獣害が発生している。猟師が減っていることも要因となっているため、後継者の育成も必要となる。
- ・ 耕作放棄地は貸農園として活用できればいいが、窓口などが無いため現状では難しい。個人での貸し借りは行われているが、市が介入して窓口をしてくれると良

い。

- ・ 加東市は海外の人も多く、海外の人を対象とした勉強会をすることでトラブルを減らすことができる。国際交流協会では日本語教室と併せてごみの分別講習も行っているが、参加者は全体数から見ると少ないのが現状である。
- ・ 観察会や勉強会によって、自然に価値を感じることで、大切にしようという意識を持ってもらう必要がある。本からではなく、長年地域で暮らしている人が伝えていくことが重要である。
- ・ 勉強会だけを行うのではなく、農家に協力してもらっての芋ほり等の楽しめるイベントも併せて行うことで参加者を集めやすいのではないか。
- ・ 山への関心が低く、現状関わりを感じにくい。子どもころから木に触れる木育などの取組ができるといい。木でできたものは高価というイメージもあるため、木製のおもちゃなどはお母さん方の関心を得やすい。
- ・ 加東市は薪ストーブの普及率が高いので、木炭としての需要も見込めるのではないか。薪を購入すると値段が高いので、市内で放置されている木を活用できるような仕組みがあると良い。キャンプでの利用も見込めると思う。
- ・ 木の皮も檜皮茸など、何かしら活用できると良い。

【2班】地球環境分野

- ・ レジ袋の有料化によって、エコバッグの利用が増えているため、加東市でも独自のエコバッグを作ってもいいのではないか。通常のエコバッグではなく、保冷、保温機能がついているものができれば、なお良いと思う。
- ・ エコバッグは地球環境のためには良いかもしれないが、コロナ対策の観点で、店員に詰めてもらうのではなく、自分で詰められるようなコーナーを作るなど、事業者も一層の工夫が必要である。
- ・ エコバッグは5回、10回程度の使用ではかえって環境に負荷がかかることもある。自然に分解されるような新しい素材が開発されると、エコバッグは敵視される状況にもなりえるため、計画にエコバッグと記載すると後々問題があるかもしれない。
- ・ エコバッグは環境のことを考える一歩だと思う。廃棄物についても考えるきっかけになり、廃プラスチックの排出を減らすことにつながると思う。
- ・ コロナウイルスが終息した後は、今までの生活に戻らないかもしれないという専門家の話もある。終息後のことも考えなければならない。昔のように豆腐屋に鍋を持って行っていたような時代のことも見直さなければならないかもしれない。
- ・ 保冷式や新素材のエコバッグを市として作るというよりは、専門業者が環境に良くて使いやすい商品を開発して、市がその商品を積極的に広報し、市民が利用すれば、3者で協働できる取組となるのではないか。
- ・ 事業所では環境と縁のない業種では関心が低いという問題もある。市民、事業者、行政が協働するまちを目指すのであれば、環境について身近に感じられるような工夫が前提として必要である。
- ・ 専門家を招いた本格的なセミナーなどを、子どもにも分かりやすいような形で取組めると良い。
- ・ 今回のコロナウイルスでは、国の方針が大々的にでていたが、市からの情報提供は不足していたように感じる。情報提供の手段としてもチラシを窓口に置いていく程度ではないか。市民、事業者、行政が情報を共有できると良い。
- ・ 気候変動の対策等は市が行うものも多いと思うが、市民や事業者にも積極的に取組んでもらう必要がある。企業では、CO₂の排出目標を設定しているところもあり、社用車にステッカーを貼って地域の見守り隊のようなこともしているものもある。

- ・ これから10年後には自動車の自動運転化もかなり進むと思う。車の保有台数も減り、CO₂の削減にも効果があるのではないかと。自動運転バスが市内を走るようになれば、お年寄りなどの交通手段となる。
- ・ 自動運転バスでなくても、隣近所がコミュニケーションをとり、乗り合いできると良い。
- ・ COOL CHOICEの中に、ウォームシェアやクールシェアというものがある。近所の人が一箇所に集まって涼んだりすることでCO₂削減にも電気代の節約にもつながる。昨年までは施設としてCOOL CHOICEが取組まれていたが、コロナウイルスの影響で今は難しい。
- ・ 市民、事業者の意識を高めるといことであれば、省エネ行動やグリーン購入でポイントが貯まる環境ポイント制度があると良い。事業者であればグリーン認証など、市が優良企業として評価するような制度があると良い。
- ・ 若者は都会に出てしまうのを防ぐために、ある程度の雇用先や遊べる場所は必要だが、自然を大切にすることと商業施設や企業の誘致を両立することは中々難しい。
- ・ 開発は進んでいるが、バランスの取れた住みやすさもあると感じる。姫路や神戸のように開発が進むと安心・安全面や治安の問題も出てくると思う。加東市は治安もよく、空気もおいしい、ある程度便利、というところを売っていくことも大切ではないか。
- ・ 高齢者が楽しく暮らせるまちづくりをすることで、若者に自分も歳をとったらあんな風に過ごしたいと思ってもらえるのではないかと。
- ・ カードでSDGsを学べるようなものもある。市内にSDGsの講師資格を持っている人もいるので、出前講座で学習ができると良い。

【3班】 廃棄物分野

- ・ 小中学校等での集団回収は定期的に行われており、これからも進めていく必要がある。加東市の集団回収ではPTAや地区自治会がしているものがある。
- ・ 以前は集団回収用に廃品をためていたが、道路わきに回収場所ができてからはそこへ出している。集団回収ではその時あるものを出している。
- ・ 集団回収を実施すれば、実施者に売却益と市からの奨励金が入る。
- ・ ポイ捨てや不法投棄は非住民や在住期間の短い住民がしていることが多いと感じる。勤め先企業などでの教育が効果的だと思う。
- ・ 人口が増加している外国人も含めた教育、モラル形成が必要である。文化や習慣の違いもあるので、理解できていないだけかもしれない。言語の違いもあり、理解してもらうための工夫が必要である（難易度は高い）。地域、事業者で取り組んでいる事例もある。
- ・ 学校では資源ごみ回収が浸透しており、小学6年生と一緒に環境学習の一環として取り組んでいる。大人の頑張りを見て大切さを学んでいる。
- ・ ごみの分別については、意識はしていても分かりづらいものもある。市のカレンダーもあるが細かくわかりにくい。曜日ごとに分かりやすくまとめたものがあればいいが、地区によっても曜日が異なっている。ステーションによって次の回収品目の種類を貼りだしているところもあるので貼り出されていないところでもできると良い。
- ・ 外国人がといわれるが、日本人の間でも温度差が大きいと思う。個人の意識を高めることが大切である。
- ・ 日本人、外国人問わず事業者での教育は効果的なのではないかと。
- ・ 市が毎年全地区を回り、分別講習をしているが参加者が毎年同じという話もよく聞く。
- ・ 転入手続き等新規住民が必ず来る際に分別の説明をすると良い（任意では参加し

ないので)。区長自身が説明を行っている地区もある。

- ・ アパートでは管理人に指導してもらえるといいが、それも難しい。地区との関係性が希薄なため、地区では対応が難しい。
- ・ いつでも出せる資源回収拠点を自治会などで設置できると良いが、以前設置したところでは地域外の人にも利用され、業者が回収に来るまでにあふれてしまうことや、管理の問題もあり1年でやめてしまった。
- ・ ステーションごとの管理方法で、ごみをいつでも出せるところ、朝出さなければならぬところ等様々あるが、いつでも出せるところでは交通手段がない高齢者が天候を気にせず排出できるというメリットがあるのではないか。
- ・ 不法投棄対策の防犯カメラは、被害が多いところに市、県補助を利用して設置されている。(効果的であり設置は難しいことではない)
- ・ 幹線道路上のポイ捨てがひどいが何か対策はないものか。
- ・ 普段ポイ捨てを見かけても拾うことはないが、クリーンキャンペーンでは拾う。クリーンキャンペーンでなくても月に1回拾うなど、取組ができると良い。
- ・ 茂みになっているところや汚れているところでは特にポイ捨てが多い。昔はひどく汚れていたが、今ではきれいになっているところもあるので、どのようにきれいにしたか教えてもらえると良い。
- ・ 高齢化が進むことでゴミステーションの管理者の問題も出てくる。高齢者のごみ問題という視点も必要。
- ・ 缶やビンの回収日には、ゴミステーションの近くに住んでいる人はガチャガチャと音がしてうるさいという話もある。

—後半—

【1班】協働分野について

- ・ 加東市民だけでやるのではなく、外部の人にも入ってもらう必要がある。
- ・ クリーンキャンペーン等のボランティア活動と勉強会やイベントを抱き合わせで行うなど、楽しそうだと感じてもらうことが重要である。花の種を植えて、咲いた頃に花見をしたり、野菜を育てて収穫したりしても良い。また、定期的に活動をすることで認識してもらいやすくなる。
- ・ 異なる世代が交流することで話題も広がる。PTAや学生を巻き込むと良い。PTAが協力してくれることで、子どもも集まるのではないか。小学校の跡地にふれあい広場や学童を残して、学校の先生などに来てもらう機会を設けられると良い。
- ・ 加古川市では農業高校の学生に社会見学を兼ねて環境イベントに参加してもらっている事例があり、学校と地域の連携ができています。
- ・ 国際交流協会では日本語を習いに来る外国人を対象に、不用品の交換などの取組も進めている。参加される外国人は一部なので、企業にチラシを配布している。現在、お楽しみ会を行っているので、そこにごみ拾いなどを抱き合わせると良いかもしれない。外国人に環境学習や取組に参加してもらうには、やはり企業との協働が必要。
- ・ 子どものころから良いことと悪いことを判別できるような機会を設けると良い。
- ・ タクシー券では家から往復できず、自主運行バスも一部の地域にしかない。最低でもスーパーや病院への交通は確保する必要がある。免許返納が勧められる中、交通の不便さのために市外や施設に引っ越し人もいる。
- ・ 滝野地域では買い物バスを求める声が市民からあがり、コープの協力のもと買い物バスが運行している。他の地域でも実現可能かもしれないが、事務局の設置等行政との協働は必須である。相生市では、買い物のための乗り合いバスシステムが構築されているので参考にするのも良いのではないか。

- ・ 市にも協力してもらいながら、小学校区単位などでネットワークを構築できると良い。ゼロからでなくても、今あるネットワークを活用できると良い。

【2班】環境学習分野

- ・ 自分にメリットがなければ、講演会なども参加しようとは思わない。環境一本でイベントを行っても参加者は集まりにくいのではないか。イベントの方法としても、ワークショップ形式やクイズなど様々なものがある。小学校の環境学習では、グリーンカーテンや川の生物調査などの体験を伴っている。
- ・ 木の名前を覚える、魚の名前を覚えることが環境学習ではなく、自然の中にいると気持ちが良いと感じることや、こんな生き物がいるというのを見るのが環境学習だと思う。
- ・ 人権学習の間に環境教育のビデオをかませるのも良いのではないか。環境だけのために、地区で集まってもらうのではなく他のテーマと抱き合わせると良い。
- ・ 県などが作成しているレッドデータブックの加東市版を作成すると面白いのではないか。地域の生き物への関心を高めるきっかけにもなる。また、外来種の問題も最近はあるため、それらを知ってもらう工夫も必要ではないか。
- ・ 親に関心を持ってもらう必要もあるのではないか。親子で学習してもらおうと良い。
- ・ ゲームで環境を学んでもらえると良いが、ゲームでは美化されてしまうので実際の生き物は触れないということもある。
- ・ 昔は近所で中学生が小学生を連れて魚釣りに行ったりしていたが、今は親が山や川へ行くのは危ないと言って止めてしまう。逆に、安全に自然を感じられる場所がたくさんできれば、子どもを安心して学ばせることができるかもしれない。
- ・ 今は小学3年生で環境体験学習、5年生で自然学校をしているが、結局生き物に触れない子もいる。自然の多い地域に住んでいても子どもは自然に触れられていないという問題でもある。最近は家でゲームをしている子どもも多い。
- ・ 川の親水公園でも、コンクリートで固められており、生き物がない状況である。
- ・ 環境学習という名目でなくても、地域のお年寄りが子ども達に遊びを教えるような場があると良い。
- ・ 今は小学校で水鉄砲や弓矢を一緒に作るようなイベントをしても、親に子どもにナイフを持たせるのは危ないと言われる。一方で、そういった体験をさせたいと思う親もいると思う。
- ・ 怪我の心配があるのであれば、老人会などが既に作ったもので一緒に遊ぶのも良いと思う。川や山を一緒に歩いたりして、子どもが関心をもったものをお年寄りが教えることができると良い。何の目的もなく散策するのもよいが、ガイドのように案内してくれる人がいるとなお良い。そういう人を市の人材バンクに登録できるようになると良いのではないか。
- ・ 昔よりも農薬の使用も減ってきて、環境も良くなってきている。健康志向のお母さん世代などには、自然を守ることを伝えやすいかもしれない。親が行きなさいと言えば子どもは参加する。
- ・ 北播磨地域では鳥類がたくさんいるなど、地域の環境の特徴を学習会で伝えることで、実際に足を運ぶこともあるかもしれない。環境学習を習慣づけることも必要。
- ・ 溝掃除の際に子どもを連れていき、ドジョウやエビを掬い上げていると近所の人が声をかけてくれて、いろいろ教えてくれたりする。子どももそれを楽しんでいる。
- ・ わが町の環境自慢などをまとめた冊子を作り、配布することで現地に行ってみようと思ってくれる人もいるのではないか。市全体としての動向はわかるが、地域ごとにどんな生物がいるというのを発信できる。一方で、希少な生物の乱獲には気を付ける必要がある。また、一度冊子として発信されることで、今の環境を維

- 持しななければならないという意識付けにもなり、地域の人にもそれに誇りを持つて。
- ・ 教育テレビで教育番組として放送できると面白い。
 - ・ 虫やザリガニが触れない子でも、一緒にいた人がとってくれれば触れるものなんだと思ってくれるかもしれない。
 - ・ SDGsのカードゲームなども活用して、午前はカードゲームをし、午後に外に出ていってみるとリアルに感じることができるのではないか。

【3班】生活環境分野

- ・ 空き家などが増えており防犯上怖いと感じる。植樹帯や耕作放棄地から伸びた草で車が来ているのが見えづらいところもあり、安全上、景観上良くない。通学路にもそういう場所があるので管理をして欲しい。
- ・ 空き家は統計的には増えており、完全にあいているものもあれば、高齢者が施設に入って空き家になっているものもある。
- ・ 休耕地や放棄地の中には持ち主が分からないものもあるので所有者をはっきりさせなければならない。市から所有者に指導することはできるが、市が直接整備することは基本的にはできない。
- ・ 休耕地、放棄地の解消のため、地産地消を推進するとか、地域で農地を活用するなどの取り組みはできないか。
- ・ 休耕地を営農組合で管理している事例もあると思う。
- ・ 高齢化で畑をやめる人も増えている。加東市では日本人は減っているが、外国人は増えているので、休日等に外国人と協力して耕作できるような仕組みがあると良い。
- ・ 現在は外国人と一般市民の関わりはあまりなく、事業者との関わりのみになっている。きっかけとして事業者の協力を得る必要はあると思う。会社で耕作地を借り上げることは難しいと思われるので、案内をしてもらえると良い。
- ・ 耕作がされなくなってから時間があまりたっていなければ耕作もしやすいが2～3年放置されていると難しい。
- ・ 地区管理等でだれでも耕作できる市民農園のようなものができれば、する人もいるのでは。
- ・ 田んぼでは持ち主が代々つながっていることも多く、耕作ができなくなってから他人に貸し出そうと考える人はごく少数である。他人に貸すことに抵抗のない人は、できないのであればすでに耕作してもらっていると思う。
- ・ 県からの委託で配布された花を家の庭に植えて育てているようなところがあり、通る際に見るのが楽しみである。
- ・ 大気というのも大きな話ではあるが、車の運転の仕方を変える（エコドライブ）とか、電気自動車やハイブリッド車を利用するということがよく言われている。市の補助として太陽光発電などがあるが、電気自動車にも補助があると良い。
- ・ 野焼きの問題はよく言われており、農家が規制対象とならないもの（例外）を燃やしている場合もあるが、住宅地が増えている中で苦情を言う人もいるようである。農家の立場からすると、処理に困るし燃やせば肥料にもなるということだが、近隣住民にとっては煙害と臭いで困っていることもある。例外であっても風向き、焼却位置等考えてもらわなければ。
- ・ 稀に生活ごみを燃やしている人もいたりするが、近所なので注意もしにくい。
- ・ 生活環境分野の中で一番気になる問題は、やはり放棄地等も含め「景観」に関することである。

以 上